

## **庄内空港機能強化検討会議の参加者からの意見概要**

### **鶴岡市 企画部長 上野 修（代理：地域振興課 主査 齋藤 真一）**

- ・冬期間でも安心して就航できるということが、利用者の安心面に繋がる。
- ・国際線の受け入れについて、ターミナルの増築は非常に有効である。空港駐車場の改善も必要。
- ・羽田便の5便化や関西便など各方面へのアクセスについて様々なところから要望を受けているため、強化が必要。
- ・国内貨物はトラック輸送が大部分を占めているが、運転手不足や働き方改革等といった問題を踏まえれば、航空貨物に伸びしろがあるのではないかと。

### **酒田市 企画部長 加藤 義和**

- ・庄内にとって、庄内空港は外と繋がるための基盤であり、ビジネスでも普段の生活でも欠かせないものである。
- ・空港を活用するにあたり、滑走路延長、動線分離、C I Q（税関・出入国管理・検疫体制等）の整備、空港駐車場の拡大は必要。
- ・国内線、国際線に関わらず冬期就航の安定は重要で、いつでも安心して使えるものであることが重要。
- ・将来ビジョンでは、将来像に向けた機能強化について優先順位をつけて取り組むことができるようまとめてもらいたい。

### **三川町 企画調整課長 鈴木 武仁**

- ・庄内地域は、鉄道や高速道路などに課題があり、庄内空港に期待する部分大きい。
- ・空港については、冬期間の安全な運航、利用者の増加や利便性向上のための運航ダイヤの改善や新規路線、チャーター便の誘致が課題。
- ・庄内地域全体が連携するとともに、県とも連携しながら機能強化への取り組みを進めていかなければならない。

### **庄内町 企画情報課長 樋渡 真樹**

- ・地方創生という観点で、人口減少問題への対策として、交通の便が良いということは非常に重要であり、鉄道や高速道路のほか、空港機能の充実も欠かせない。
- ・農業分野でも若い方が頑張っており、農産物や特産品の販路拡大のためにも空港の整備が重要。
- ・庄内町への二次交通の利便性を高めるため、町としても考えていかなければならない。

### **遊佐町 企画課長 渡会 和裕**

- ・人口減少が進む中、関係人口を増やすためにも庄内空港の利便性を向上させ活用していくことができるのではないかと。
- ・日本ジオパークの認定を受けている「鳥海山・飛島ジオパーク」では、ユネスコ世界ジオパーク認定を目指しており、外国からのお客様をどうおもてなしするかなどの課題に取り組んでいる。
- ・町独自の取り組みのほか、関係者と連携しながら取り組みを進めていきたい。

**鶴岡商工会議所 会頭 上野 雅史（代理：専務理事 高橋 健彦）**

- ・ 庄内地域の発展のため高速交通基盤の整備は必須であり、高速道路が繋がっていない状況や、冬期の天候により鉄道の運休が発生する状況の中、庄内空港からのアクセスは庄内にとって生命線である。
- ・ ビジネス面での空港利用が多く、羽田線の予約が取れないといった状況があり、今後もビジネス需要が高まるという認識を持っている。
- ・ 鶴岡市のロータリークラブと台湾のロータリークラブの連携交流の協定締結に向けた取り組みを進めており、海外との経済交流という面でも需要を起こしていきたい。
- ・ 災害時のリダンダンシーの確保という面で、庄内空港でも災害対応の議論が必要。

**酒田商工会議所 会頭 加藤 聡（代理：専務理事 阿部 勉）**

- ・ 人口減少に伴い、労働人口の減少が進んでいる状況の中、地域経済の活性化のためには人や物の活発な往来が必要であり、そのために空港が果たす役割がある。
- ・ 機能強化の面では、滑走路延長に加え、C I Qの整備については強くお願いしたい。
- ・ 羽田便の5便化のため、羽田空港発着枠政策コンテストに向け、取り組みを一層頑張っていく。
- ・ 国土強靱化に向けて、山形空港と同様に庄内空港でも災害時の代替機能を備える必要があり、東日本大震災では滑走路 2,500m の空港における利用便数が多かったことから、防災面でも滑走路延長が必要。

**山形県工業会 会長 前田 直之**

- ・ 中型機就航のためには、ビジネス利用者のほか、観光やレジャー目的の利用者を増やす政策を進めていくことが重要。
- ・ 空港駐車場が不足している状況であるため、利用状況や今後の就航便数などを踏まえ、必要な駐車場の整備をお願いしたい。
- ・ 何のために空港の機能強化をするのか、しっかりとした根拠に基づいて進めてもらいたい。
- ・ 山形新幹線を新庄から庄内へ延伸し、終着を庄内空港にすることで、庄内だけでなく内陸の方も含めて羽田経由で世界に飛んでいける県民の空港にすることが可能。

**公益財団法人 山形県観光物産協会 会長 平井 康博（代理：副会長 佐藤 信幸）**

- ・ 政府がインバウンド客を 2030 年の訪日外国人旅行者数 6,000 万人を目指すなか、今年は庄内空港への国際チャーターが 2 便（4 往復）だけであり、大きな機会損失になりかねない。
- ・ 滑走路を 2,500m に延長し、海外主要都市からの定期便を受け入れる環境整備が必要。
- ・ 空港整備が進めば、海外から山形への直接乗り入れが可能となることで訪問のハードルが下がり、山形を目的地として選ばれ、観光客が確実に増加する。

**山形県旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長 山口 敦史（代理：専務理事 佐藤 鉄平）**

- ・ 世界的に精神文化への旅の関心が高まる中、出羽三山を核にしたインバウンド誘客をテーマとして取り組んでいる。また、ナショナルジオグラフィックで山形が取り上げられ、大きなチャンスが来ていると感じている。
- ・ 観光面だけではなく、働き手の確保という点でも海外との交流が必要。
- ・ 空港の機能としては、滑走路延長のほか、国際的なハブ空港と結ばれるような定期便があれば、世界中から個人旅行者が庄内にアクセスできるようになる。
- ・ 一過性ではなく持続的に海外との接続を高めていくことが、観光の視点から重要なポイント。

**全日本空輸株式会社 執行役員ネットワーク部長 寺川 直宏（代理：担当部長 渡辺 知樹）**

- ・航空運送事業にとっては安全が第一であり、次に安定運航が重要。滑走路延長や航空保安施設の整備は就航率向上には非常に有効であるが、巨額な投資になるため冷静に費用対効果を議論してほしい。
- ・SOLWIN（低層風情報提供システム）については、それほど費用がかからない中で確実に効果が出せるものであるため、正式運用化に向けて引き続き検討してもらいたい。
- ・コスト上昇等により国内線の路線拡大が難しい状態のため、人流需要の拡大に向けて当社としても努めていく。
- ・インバウンドの誘客に向けては、庄内空港への直行便だけではなく、羽田空港に来た方に庄内線を利用していただくといった視点でも検討してもらえると、庄内ー羽田便の路線維持にも繋がる。

**チャイナエアライン 成田空港所長 蓮見 孝倫（代理：課長 岩田 容子）**

- ・庄内ー台北間のチャーター便を運航したが、到着時、出発時ともにC I Qで時間を要していたため、C I Qの強化をお願いしたい。
- ・冬期間の旅行を好むお客様が多いため、チャーター便就航時の除雪対策もお願いしたい。
- ・台湾の旅客はお土産を購入して帰国するため、売店スペースの充実もお願いしたい。

**株式会社ワールドコンパス 代表取締役 根来 勇人**

- ・インバウンド誘致に関して、すぐに定期便化は難しいと思われるため、チャーター便を増やし、定期チャーターにしていくというプロセスを組んでいくことになる。
- ・アウトバウンド客が低迷しているため、日本の方にも海外に行ってもらうためにも空港機能の強化は大切。
- ・C I Qや発着時間の制限があると、チャーター便がうまく就航できないことになるため、そのような面から空港機能強化は必要。

**庄内空港ビル株式会社 代表取締役社長 山下 高明（代理：常務取締役 松田 茂）**

- ・空港ビルとしては、施設利用者の安全安心の確保と利便性の向上が大きな柱である。また、地域の活性化の拠点としての役割についても求められていると感じている。
- ・賑わい創出という観点から、北海道展などの取り組みを拡大し、ビジネスや観光のお客様にとって空港がわくわく感のある施設となるよう、取り組みを進めていきたい。

**株式会社庄内コーポレーション 上席執行役員営業第二部長 渡部 賢**

- ・滑走路延長、ターミナルの拡張、空港駐車場の拡張は同時に進めていただきたい。
- ・駐車場に関しては、緑地公園の駐車場など空港駐車場以外に停めており既に足りない状況であり、大型機やチャーター便が就航すれば駐車スペースがさらにひっ迫する。
- ・羽田便が5便就航しているなかでチャーター便を受け入れることが難しいこと、また、チャーター便で出発する際に利用者の待合スペースがない状態のため、国際線専用ターミナルがあるとよい。
- ・グランドハンドリングを担っている立場として、チャーター便対応の人繰りの問題や、国際定期便が撤退するなどのリスクの問題があるため、その点についても一緒に考えてもらいたい。

**一般社団法人 山形県バス協会 会長 村 紀明**

- ・空港駐車場が無料であることによりバス利用が低調である。有料化もしくは無料の継続においても何らかのテコ入れが必要でないか。
- ・飛行機の発着に合わせてバスの運行ダイヤを組んでいるため、運航の定時性や欠航防止を目的とした滑走路延長は有効である。また、滑走路延長により、国内外のチャーター便や新規路線の開拓に有効。
- ・国際チャーター受け入れに際しては、動線分離やC I Qの整備は不可欠。
- ・庄内空港と山形空港の機能強化について、内容に優劣がないよう同レベルで進めていただきたい。

**一般社団法人 山形県ハイヤー協会 副会長 柿崎 裕**

- ・以前は空港利用者のタクシー利用が多かったが、近年は減少しているため、定額制運賃を設けて運行し、ビジネス利用者などに利用してもらっている。個人旅行者にも利用してもらうため周知していきたい。
- ・空港ターミナル前に予約用のタクシーの乗降車場所がないため、スペースの確保をお願いしたい。

**庄内空港レンタカー協議会（株式会社トヨタレンタリース山形 常務取締役） 庄司 俊晴**

- ・空港駐車場についてはひっ迫している状況であるため、協議会としても協力していきたい。
- ・実証実験として、駐車場の一部を利用してカーシェアを行っており、稼働率が順調である。利用者の利便性向上のためにできることをやっていきたい。
- ・冬期を中心に欠航することがあるが、その際には、協議会としてレンタカー利用者に代替手段などの情報を提供しており、今後も安心して利用いただけるよう努めていく。

**山形大学 人文社会科学部 教授 山田 浩久**

- ・飛行機を就航させるための具体的な条件をエアラインに明示してもらい、それらに的確に対応することで滑走路延長後の就航を担保していかなければならない。
- ・地域には、滑走路を延長し定期便を増便すれば地域が豊かになるという短絡的な思考は捨て、地域資源の磨き上げや訪問客に向けたアピールなどを継続し、客を増やすための努力をして飛行機を飛ばしてもらい、さらに改良を重ねていくといったプロセスを重視してもらいたい。
- ・空港整備とともに、周辺の土地利用整備を進め小売店や倉庫などの土地を確保するなど、雇用創出や経済効果に関する議論もしていく必要がある。

**慶応義塾大学 商学部 教授 加藤 一誠**

- ・国の方で空港整備事業の費用対効果のマニュアル改定に向けた会議を行っており、本検討会議での議論を頭に入れておきたいと思う。
- ・駐車場については全国の空港で問題になっている。一部有料化を進めている空港もあるが、地域にとって有料化が難しい場合もあるため、そのことを念頭に置いて議論を進めていただきたい。

**国土交通省 航空局 航空ネットワーク部 空港計画課長 楠山 哲弘**

- ・就航率改善や遅延の縮減については、重要な課題であり、検討を進めていく必要がある。
- ・羽田便が5便就航している中で、その隙間の時間に国際チャーターを呼び込むのは難しいということで、動線分離の検討を進めていることを伺っており、航空局としてもその検討に協力していく。